

講義名	ドイツ語 I		
科目区分	グローバル		
担当教員	海老原 由美子		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

ドイツ語を学ぶことはドイツを知ることです。ドイツってどんな国？ドイツ人ってどんなことを考えてる？ドイツ語を学びながら、それを感じ取ったり、推測したりしてみましょう。クラスメートには「Hallo」、目上の人には「Guten Tag!」と挨拶することからスタート。ドイツに留学した Seiko に自分を重ね合わせて、自己紹介したり、家族や友人を紹介したり、欲しい物や必要な物を表現したり、町へ出て、様々な商店や銀行に郵便局へ行ったり。実際に使える身近な表現を学んだ後に、文章の規則性に気づく。このプロセスを大事にして文法を学びます。まずは表現を学び聞き、声に出して体験学習し、文法へ。すべて、ペアかグループワークとなります。

到達目標

自己紹介や他者の紹介では、様々な動詞をトレーニングすることで、名前、出身、住まいの場所、職業、年齢、趣味、好きな飲み物が言えるようになります。その際、数字やアルファベットも導入します。また、身の回りの事物、商店や施設の名称をトレーニングすることで、ドイツ語の大きな特徴の一つである名詞の性と冠詞の仕組みをマスターします。中間テストを経て、助動詞を学びます。「したい」「しなければならない」「できる」など、表現の幅が広がります。慣用表現をより多く身につけてドイツ語らしさを磨きましょう。繰り返し音声を聞き、ペアワーク、グループワークで会話し、発表し、より多く発音する機会を作り、しっかりと発音を身につけます。

提出課題

毎回の授業の復習として、教科書に添付されたワークシートはもちろん、教科書の内容を補うワークシートの提出が課題となります。週に一度の授業ですので、この課題提出は評価の重要なポイントとなります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

オンライン授業となり、課題は提出していただきますが、解答もオンラインで提示することになるため、自分自身でチェックする必要があります。双方向オンライン授業の中で、皆さんが提出された課題のミス傾向などお伝えするようにします。

評価の基準

平常点（出席 - 15%、提出物 - 25%）40%
筆記試験（中間テスト - 25%、期末テスト - 25%）50%
発音チェック（中間 - 5%、期末 - 5%）10%

前期は定期試験を行わないことになりましたので、授業中に中間&期末というかたちで、テストを独自に行うことで、評価に結びつけたいと思っています。

履修にあたっての注意・助言他

教科書（ワークブック付き）は必ず、買うようにしてください。音声は教科書にダウンロード・ストリーミングのurl があります。聞き取りに力を入れたいので音声をよく聞くようにしてください。音には慣れることが一番だからです。ペア、グループでのワークが中心ですから、互いに助け合って、自発的に授業に参加すれば、ドイツ語力がついてゆきます。

教科書	. 自己表現のためのドイツ語 I <プラス>.	板山真由美 塩路ウルズラ 本河裕子 吉 三修社	\ 2600	978-4-384-12303-6

プリント資料及び参考文献

<推薦辞書・サイト>
アボン独和辞典 同学社 / 辞書サイト glosbe

- 授業計画**
- L1 ドイツへ 挨拶&自己紹介、機内での会話・好きな飲み物・苦手な飲み物
 - L1 ドイツへ 私の職業は学生です。あなたは？(Sieの関係-距離を置いた関係)
 - L2 ホストファミリーで オリヴァーが空港で聖子を出迎える。「きょうの調子はどう？」
 - L2 ホストファミリーで オリバーと互いの家族を紹介しあう (duの関係-親しい関係)
 - L2 ホストファミリーで 数字や、趣味について学び、表現を広げる。
 - L3 新しい環境 ホストファミリーの聖子の部屋にあるもの&ないもの。名詞の性を学ぶ。
 - L3 新しい環境 聖子がオリヴァーに尋ねる。「郵便局は近くにある？」「郵便局に行くの。」様々な店・施設とそこへいくための表現を学ぶ。
 - 中間テスト 筆記と発音チェック
 - L4 勉強と余暇 助動詞を学び、「しなければならないこと」と「したいこと」を表現する。
 - L4 勉強と余暇 助動詞を学び、「してはいけないこと」と「してもいいこと」を表現する。
 - L5 聖子の一週間 曜日を学び、一週間の予定を言えるようになる
 - L5 聖子の一週間 「この水着どう思う？」人の意見について尋ねる。自分の意見を言う。
 - L6 待ち合わせ 電話で会話。「どこで待ち合わせる？」様々な待ち合わせ場所を学び、前置詞を使う。
 - L6 待ち合わせ 電話で活動を計画し、持ち物（複数形で）の打ち合わせをする。
 - まとめと期末テストの準備

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を重視します。復習プリントを必ず課題とします。それが次回の授業への理解に繋がります。短時間でもよいので、毎日ドイツ語に触れる習慣をつけてください。一日に一度は教科書を聞く。音声を聞く。授業でトレーニングした会話文を音読する、新しく学んだ単語を書き出すなど、いろいろ方法があります。課題をとくために、1時間程度の復習をよろしくお願いします。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

1回目の授業には必ず出席してください。履修への注意事項やアドバイス、授業の進め方など重要事項を説明します。受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整したり、重点項目に絞って学習するため、教科書のすべてを扱えない場合もあります。が、基礎はしっかりと学ぶ方針です。全体として、発音を重視しますので、授業中の発音練習・会話練習に積極的に参加してください。